

# 目次

## 〔下〕

### 【第四章】山伏の神楽 1

- I ——早池峰の山伏神楽 —— 神田より子 2  
II ——早池峰山 III ——岳と大償の神楽 IV ——山伏神楽の舞台と道具 V ——山伏神楽と祈禱 VI ——祭礼と門付け VII ——式舞 VIII ——式舞の思想 IX ——神舞とその思想 X ——座舞とその意味
- 一一一 下北の能舞 —— 神田より子 17
- I ——春祈禱 II ——顎のはずれた三番叟 III ——戦いを見ていた別当
- 三 ——鳥海山の比山番樂 —— 神田より子 25
- I ——火の山・鳥海山 II ——杉沢比山 III ——比山番樂 IV ——番樂舞と鎮魂

### 四 ——陸前の法印神楽 —— 神田より子 34

- I ——牡鹿の法印神樂 II ——法印神樂の演目とその内容 III ——法印神樂の宗教性
- 第四章——まとめ——神田より子 41

### 【第五章】神楽と修驗道 45

- I ——奥三河の花祭 —— 保坂達雄 46
- I ——花祭の里 ◎花祭の里 ◎花祭の祭場 II ——花祭の進行 ◎神迎えの儀式 ◎湯立て・儀式舞 ◎一の舞から獅子まで ◎神送りの儀式
- III ——花祭の特質 ◎春来る鬼 ◎花育て ◎花祭と修驗道 ◎湯立てと神がかり ◎花祭と地域社会

一一 坂部の冬祭り——島崎良 74

I 斜面の小集落 II 「冬祭り」の名称 III 祭場 上の森と下の森 IV お練り V 湯立て VI 面形の登場

II 保呂羽山の湯立神樂 喜多村隆 88

I 波手忌別神社 II 湯立神樂の舞台 III 式の順序 IV 湯立神樂の演目 V 保呂羽山湯立神樂の問題点

四 銀鏡神社の祭りと芸能 「米」と「猪」の祭り——武見李子 104

I 銀鏡神社大祭 II 大祭行事次第 III 祭礼参加者の組織 IV 銀鏡神樂の構造 V 「しじば祭り」と「六社稻荷祭」

VI 米と猪の意味

五一 大元神樂の神がかり——福島邦夫 120

I 神がかり II 大元神樂 III 大元神

第五章 まどめ 保坂達雄 131

【第六章】山伏の託宣と修法 133

一 葉山の託宣 鈴木正崇 134

I 大倉の葉山 II 託宣と火つるぎ III お山駆け IV 葉山祭りの意味 V 葉山と村人 ◎神がかりくじ～いじ

◎葉山の靈験（くじ） ◎火つるぎのいじ ◎現在のハリワラの出現 ◎神様のこと ◎仏様のこと

二 美作の護法祭 白川琢磨 149

I 二上山と両山寺 II 護法祭 III 護法とは何か

III 木曾御嶽講の御座 白水寛子 157

I 御嶽講とは II 普寛靈神大祭 III 御座のあらまし IV 信仰のきっかけ V 中座への道程

VI 現代に脈打つシャーマニズムの系譜

【第七章】田遊、田楽と修驗道 187

四 魚沼修驗のお日待 福島邦夫 166  
I 魚沼の修驗 II 日待との実態 III 日待の意味

五 左大文字と大峯登拝講 北山金闇寺不動講社の活動をめぐって 和崎春日 174

I 左大文字と北山金闇寺不動講 II 不動講の活動 III 不動講の組織 IV 不動講と左大文字を結ぶもの

第六章 まどめ 福島邦夫 184

【第七章】田遊、田楽と修驗道 187

一 那智の田楽 由谷裕哉 188

I 由来と概要 II 内容 III 那智田楽の特徴 IV 修驗道との関連

II 凤来寺の鬼 III 凤来寺田楽の歴史 IV やぶみやの役割

I 凤来寺の鬼 II 凤来寺田楽の歴史 III やぶみやの役割 IV 田楽の中心としての鳳来寺

II 西浦の田楽 島崎良 210

I 観音堂の祭り II 地龍三十三番 III はね能十一番 IV しづめ 神送り

IV 新野の雪祭り 島崎良 224

I 雪祭りの名称 II 芸能団の來訪 III 夜田楽 庭の儀 IV 神面を運んだ人々

第七章 まどめ 島崎良 234  
おりに 修驗道と民俗芸能 宮家準 237

I 山の民の祭りと信仰 ◎民俗芸能の調査 ◎山の民と祭り ◎山・女性・男性 II 峰入りと山の祭り ◎峰入りと渡頂

◎諸靈山の修行 ◎吉野と熊野の祭り ◎修驗道の護摩 III 山伏の芸能 ◎宴と延年 ◎修驗系社寺の田楽 ◎山伏の神楽

IV——村の祭りと修驗道 ◎湯立神樂 ◎村の田楽 ◎神樂と託宣  
V——山伏の憑折禱と回櫛 ◎山伏の憑折禱 ◎里山伏の活動 ◎民俗芸能と修驗道

- 【付】山の祭りと芸能・文献目録 263
- 【付】山の祭りと芸能・資料目録 272
- ◎調査行事一覧 278
- ◎調査日程表 280
- ◎調査協力者一覧 283
- ◎索引 286
- ◎写真提供者・撮影者一覧 305
- ◎執筆者略歴 308